

「人づくりまちづくり研修会②」を開催しました！

令和6年12月5日（木）に津山市中央公民館で、「人づくりまちづくり研修会②」を開催し、津山教育事務所管内の市町村の社会教育委員や社会教育行政職員から約40名の参加がありました。

「社会教育による地域づくりの土台づくり ～世代・組織をこえたつながりを活かして～」

講師の小田圭介さんは、「**何にもしない合宿**」を考案し、2012年から毎月1回開催されています。子ども達が夕食も入浴も済ませ寝袋だけ持って集まり、ただ遊んで寝て帰るだけのお泊り会です。**大人は特別なことを何にも準備しません。**参加者は毎回100人を超え、回数は90回を超えています。

この取り組みを通して、子ども達と地域の接点や世代を超えたつながりをつくられています。



静岡県裾野市東地区
おやじの会
小田 圭介氏

講演より

- ★社会教育は、花を咲かせるのではなく、**花を咲かせる土壌を作る**こと。
- ★地域とのつながりは、電気、ガス、水道と同じように生活する上で不可欠な社会基盤。
- ★地域の担い手不足が課題だと言われているが、担い手不足の要因は人の不足ではなく、つながりの不足にあるのではないだろうか。
- ★中学生になると、勉強と部活が忙しくなり地域から離れてしまう。その子ども達が次に地域と接点を持つのはいつになるだろうか。中学校の3年間は、地域とのかかわりにおいて最も大切な3年間。
- ★「何にもしない合宿」は、**体験の場（イベント）ではなく関係づくりの場（日常）として継続して行う**ことで、気のいい人間関係＝信頼関係を構築している。



参加者からの声



- 地域づくりを進めるためには、地域の方や子ども達が出会える場を作ることが大切だとわかりました。
- 「何にもしない合宿」が大変参考になりました。今は、大人がおもてなししすぎている気がします。自分たちが、楽しんで行うことが大切だと思います。
- 形を整えることばかりに気を取られがちですが、やりたいことをやってみるとそこから新たなつながりや信頼感が生まれるという事例を知ることができました。
- 地域の中にある、いろんな集まりに目を向けようと思いました。そこに出会いがあると感じます。

「新しく何かを始めたり、立ち上げようとするときの『何かあったらどうするの』『誰が責任を取るの』という魔の言葉に対しては、**最後は覚悟です**」と、小田さんが言われたのが印象的でした。

日常の関係づくりを積み上げる大切さについて考え、話し合う機会になりました。